

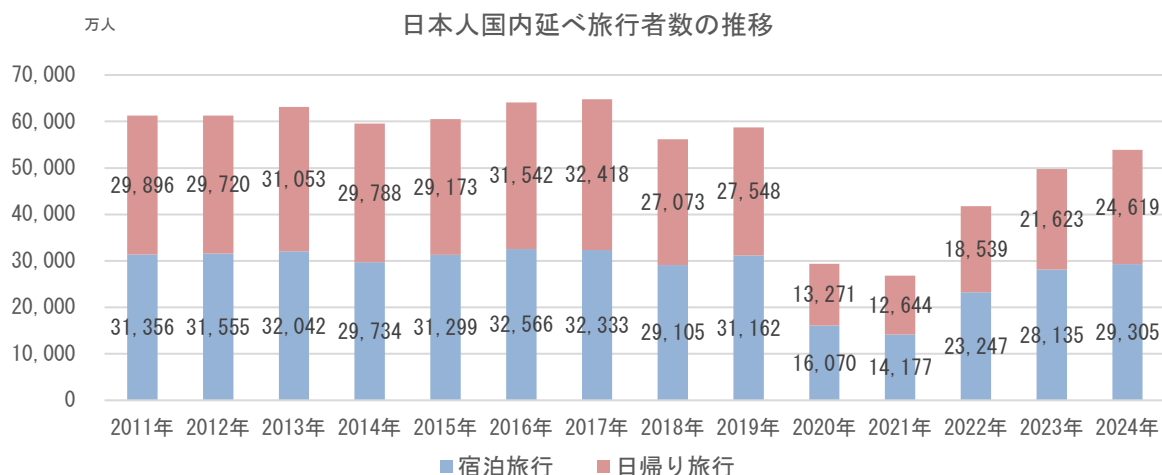
5－5 観光

5-5-1 観光業の現状と課題

(1) 観光業の現状

① 日本人国内延べ旅行者数の推移

日本人国内延べ旅行者数は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う不要不急の外出自粛や県境を越えた移動の制限等により旅行需要が低迷していましたが、宿泊旅行、日帰り旅行とも回復傾向にあります。

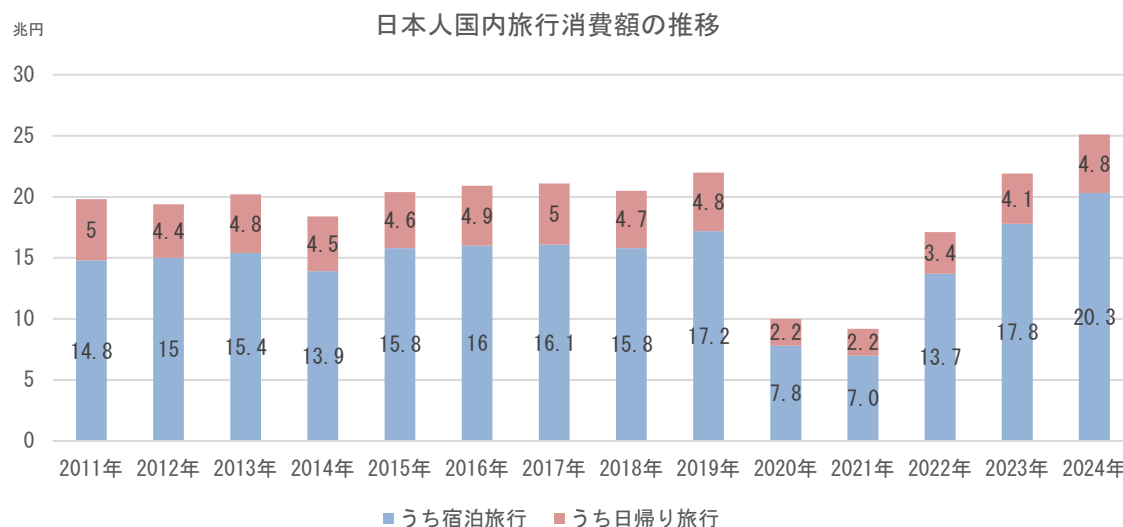


出典：旅行・観光消費動向調査(観光庁)

② 日本人国内旅行消費額の推移

日本人国内旅行消費額は、2019年まではほぼ横ばいで推移し、新型コロナウイルス感染症の流行による影響を受けたものの、2023年にはコロナ禍以前と同程度に回復しており、うち宿泊旅行の占める割合が高くなっています。

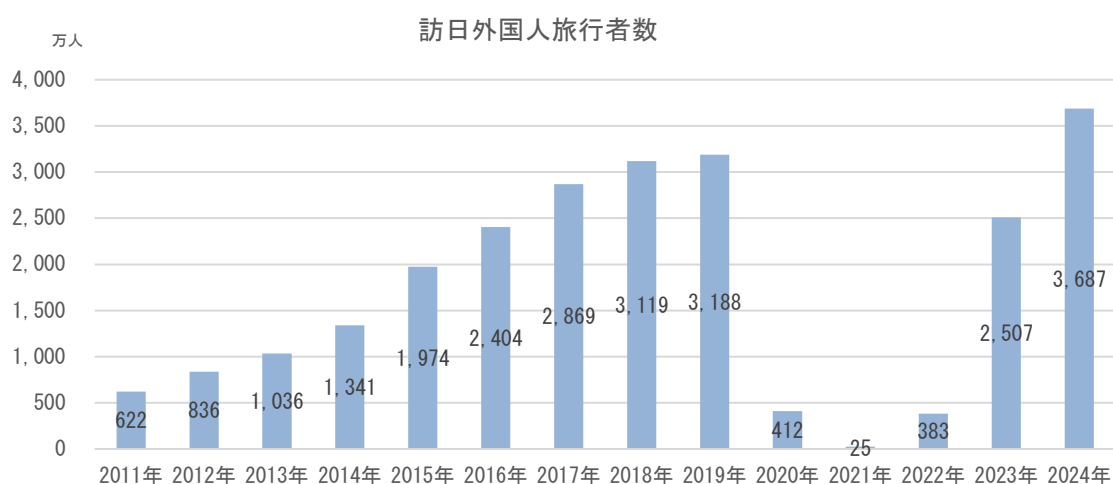
今後、人口減少が見込まれる中、旅行日数や旅行回数を増やしていく取り組みが重要となってきます。



出典：旅行・観光消費動向調査(観光庁)

③ 訪日外国人旅行者数の推移

訪日外国人旅行者数は、ビザの戦略的緩和や訪日外国人旅行者向け消費税免税制度の拡充といった改革を進めるとともに、交通ネットワークの充実、多言語表記をはじめとする受入環境整備、日本政府観光局等による対外プロモーション等により、2019年までは増加を続けていましたが、2020年は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴う影響により、前年を大きく下回りました。その影響は2022年まで続きましたがその後回復し、2024年にはコロナ禍以前を上回る旅行者数となっています。

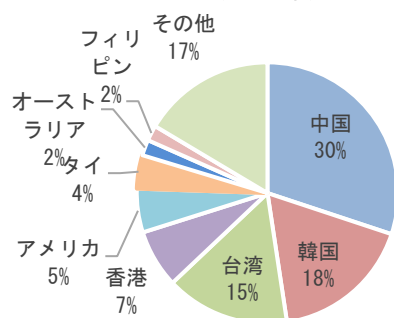


出典：日本政府観光局 (JNTO)

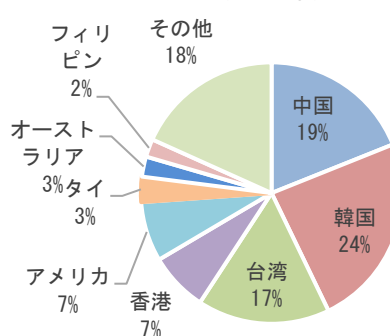
④ 訪日外国人旅行者の国・地域別割合

2019年の訪日外国人旅行者の国・地域別割合をみると、中国・韓国・台湾・香港からの入込が全体の7割を占めています。2024年には中国の割合が減少する一方で、韓国・台湾の割合が増加しており、引き続き、同エリアからの入込が全体の7割程度となっています。

訪日外国人旅行者の国・地域別割合
(2019年)



訪日外国人旅行者の国・地域別割合
(2024年)

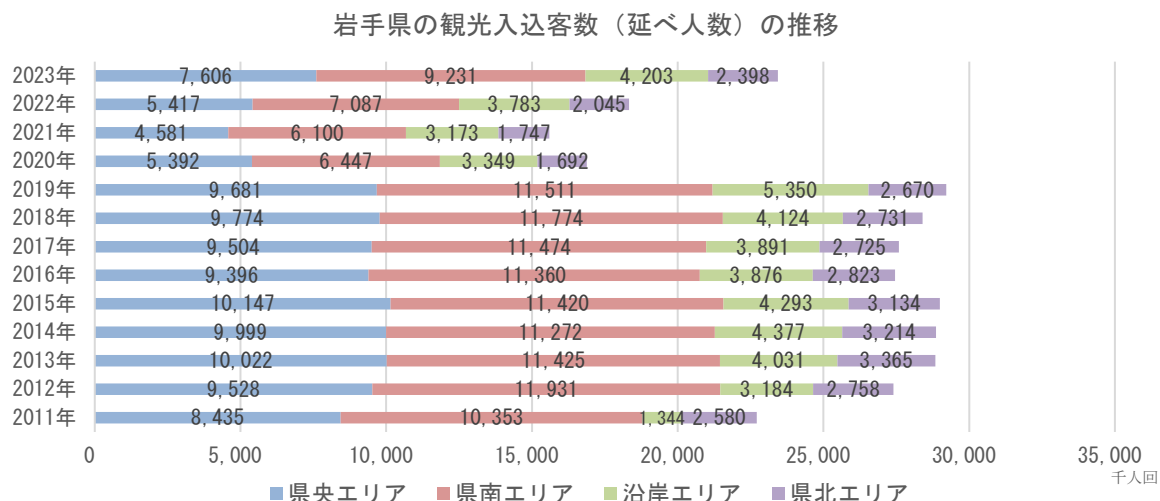


出典：日本政府観光局 (JNTO)

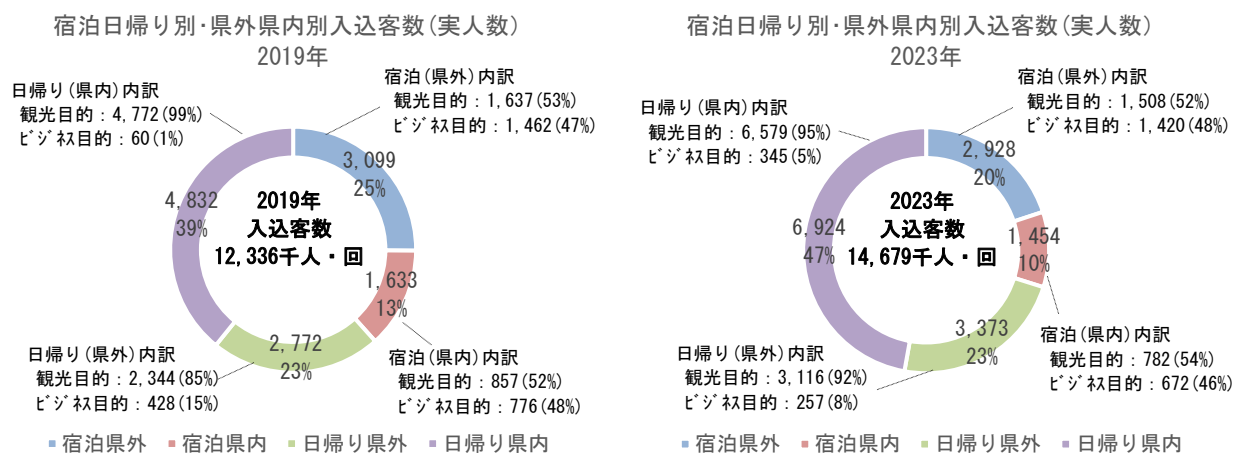
⑤ 岩手県の観光入込客数の推移

岩手県の観光入込客数は、東日本大震災後の復興需要や平泉の世界遺産登録等により震災前の水準まで回復した後、ほぼ横ばいで推移していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年は大きく減少しました。その後、徐々に回復し、2023年にはコロナ禍以前の約80%となっています。

当市を含む県南エリアは、平泉の世界遺産や温泉などの観光資源に恵まれ、県全体の4割弱を占めています。



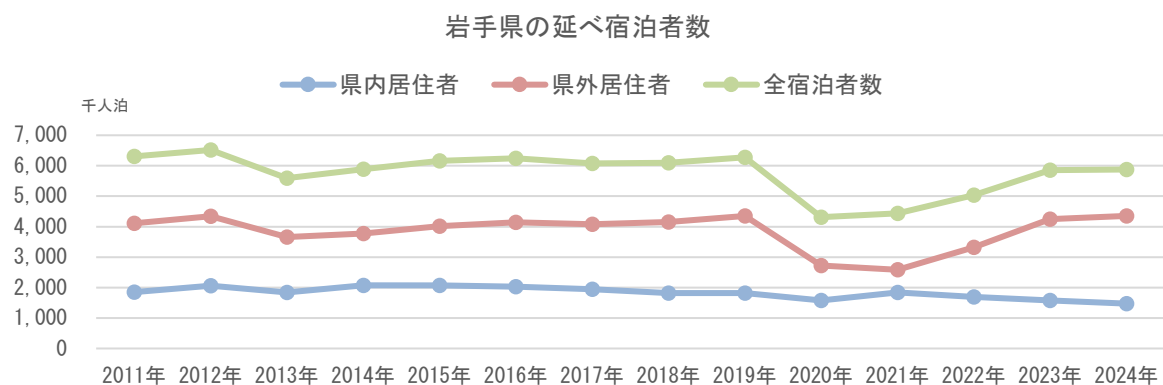
また、2019年の宿泊日帰り別・県外県内別入込客数（実人数）を見ると、宿泊・日帰り別では日帰りが全体の62%を占めており、県外・県内別では県内が52%を占めています。その傾向は2023年も同様であり、近隣県を含む日帰り圏内からの入込の割合が70%と更に高くなっています。



出典：岩手県観光統計

⑥ 岩手県の宿泊者数の推移

岩手県の宿泊者数は、近年は6,000千人泊前後で推移してきました。新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年は4,312千人泊と前年と比べ31.3%減少しましたが、2024年では5,877千人泊と、回復しつつあります。



出典：宿泊旅行統計調査(観光庁)

⑦ 居住都道府県別の延べ宿泊者数

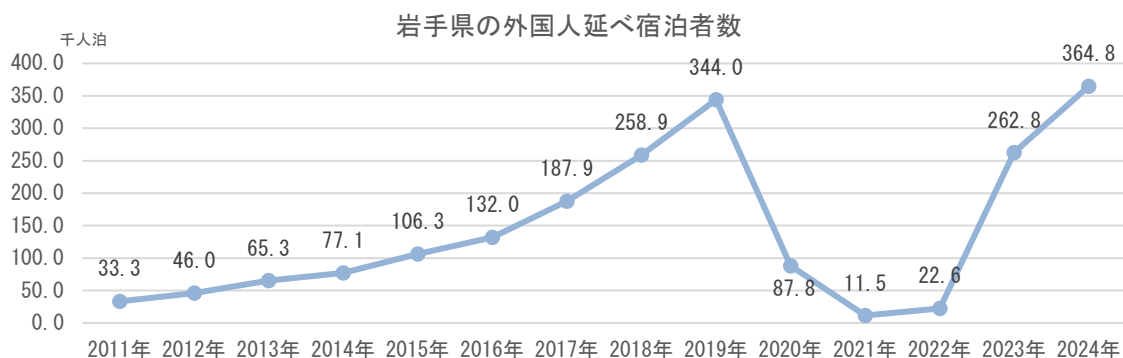
岩手県に宿泊する観光客の居住都道府県別宿泊数は、首都圏（1都3県）及び県内を含む近隣県（青森県・秋田県・宮城県）の割合が高くなっています。

		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
宿泊者の多い都道府県	①	東京都	東京都	東京都	東京都	岩手県	岩手県	東京都	東京都	東京都
	②	岩手県	岩手県	岩手県	岩手県	東京都	東京都	岩手県	岩手県	岩手県
	③	宮城県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	宮城県	宮城県	神奈川県	神奈川県	神奈川県
	④	神奈川県	宮城県	宮城県	埼玉県	神奈川県	神奈川県	宮城県	埼玉県	埼玉県
	⑤	埼玉県	埼玉県	埼玉県	宮城県	埼玉県	埼玉県	埼玉県	宮城県	宮城県
	⑥	千葉県	千葉県	千葉県	千葉県	千葉県	千葉県	千葉県	千葉県	千葉県
	⑦	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県
	⑧	秋田県	秋田県	秋田県	愛知県	愛知県	愛知県	大阪府	愛知県	愛知県
	⑨	北海道	愛知県	愛知県	秋田県	大阪府	大阪府	愛知県	秋田県	秋田県
	⑩	愛知県	北海道	茨城県	大阪府	秋田県	茨城県	茨城県	大阪府	大阪府

出典：観光予報プラットフォーム(観光予報プラットフォーム推進協議会)

⑧ 岩手県の外国人宿泊者数

岩手県の2019年の外国人宿泊者数は、前年比32.9%増の344.0千人泊となり過去最多を更新しました。2020年は前年比74.5%減の87.8千人泊となっていました
が、2024年では364.8千人泊と、過去最多をさらに更新しています。

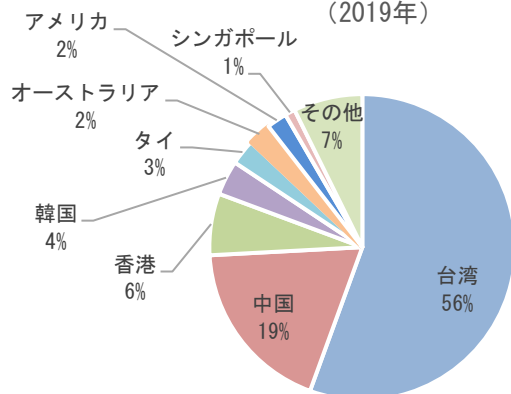


出典：宿泊旅行統計調査(観光庁)

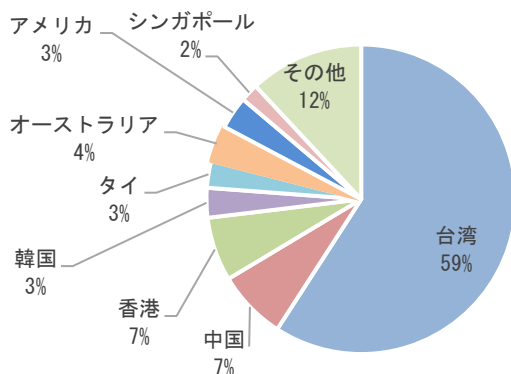
⑨ 岩手県の外国人宿泊者数の国・地域別割合

2019年の外国人宿泊者数の国・地域別割合をみると、台湾や中国、香港などの東アジアからの入込が多数を占めています。2024年もその傾向が続いています。
また、月別で見ると、10月に入込のピークがあることがわかります。

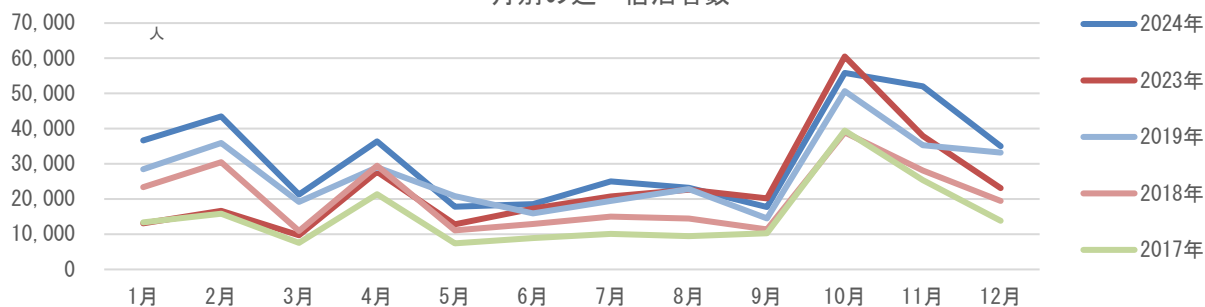
岩手県の外国人延べ宿泊者数の国・地域別割合
(2019年)



岩手県の外国人延べ宿泊者数の国・地域別割合
(2024年)



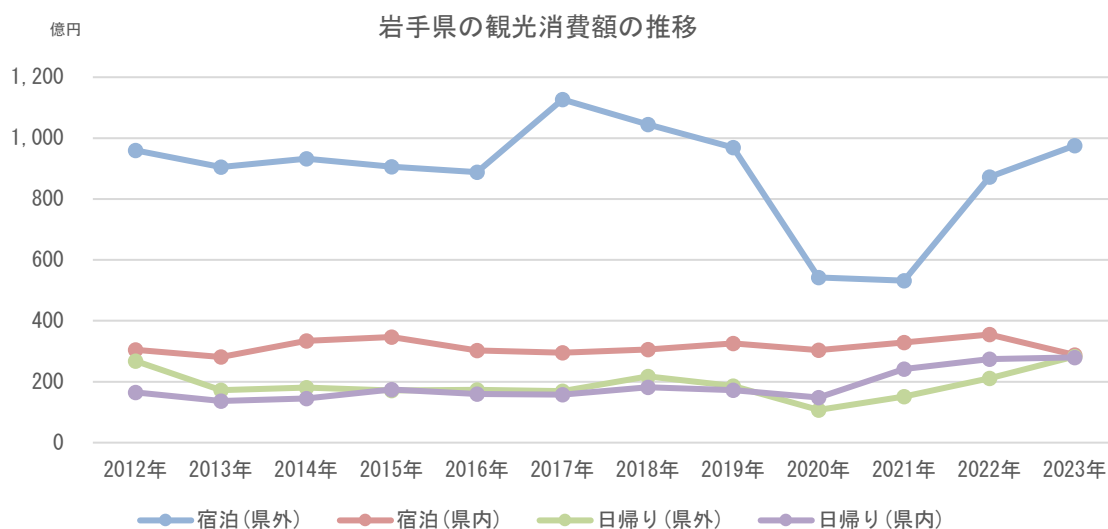
月別の延べ宿泊者数



出典：宿泊旅行統計調査(観光)

⑩ 観光消費額の推移

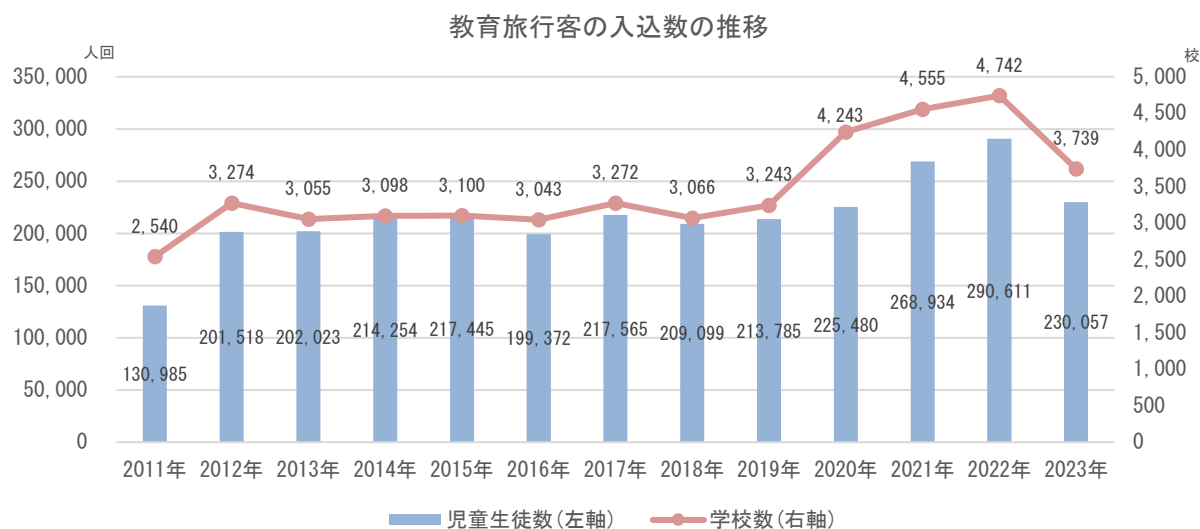
岩手県の観光消費額は、宿泊旅行（県外）の占める割合が大きくなっています。宿泊旅行（県内）や日帰り旅行の消費額がほぼ横ばいで推移しているのに対し、宿泊旅行（県外）は2017年をピークに減少傾向にありましたが、コロナ禍以降は、回復傾向となっています。



出典：岩手県観光統計

⑪ 教育旅行客の入込数の推移

2020年に岩手県を訪れた教育旅行客の入込は、児童生徒数、学校数とも前年を上回り、2011年以降最多となっています。新型コロナウイルス感染症の影響により、修学旅行等の行き先を近場に変更する動きが入込につながったと考えられ、その後、2022年までは増加したものの、新型コロナウイルス感染症の影響が緩和された2023年には、入込数が減少しています。

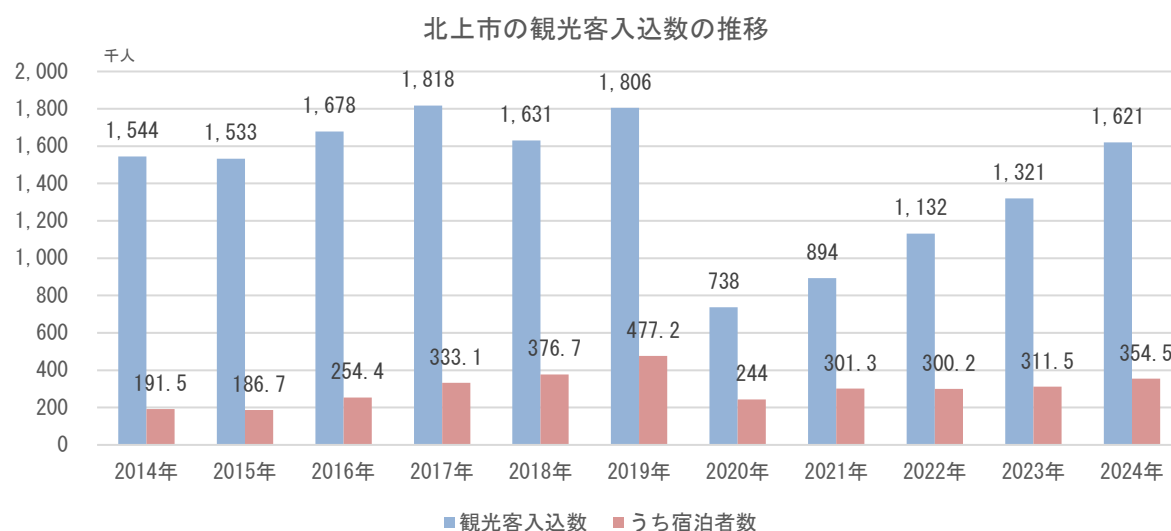


出典：岩手県観光統計

⑫ 北上市の観光客入込数

北上市の観光入込客数（宿泊者数を含む）は、2019年で1,806千人となっており、2014年に比べ17.0%増加しています。そのうち宿泊者数は2014年に比べおよそ1.5倍と大きく増加しました。コロナ禍においては、ピーク時の約40%まで観光入込客数が減少しましたが、その後、徐々に回復しています。

また、これまで、北上市においては、北上展勝地さくらまつりや北上・みちのく芸能まつりなどのイベント開催時に多くの入込がありましたが、近年では、夏油高原スキー場、展勝地周辺施設、文化施設、スポーツイベント等の通年に渡る観光客入込も増えていきます。



出典：北上市統計

（参考）主要なエリア・イベント別の入込数

	2019年 (千人)	2014年 (千人)	増減 (%)	2024年 (千人)	2014年 (千人)	増減 (%)
展勝地さくらまつり(4・5月)	440	490	△10.2	372	490	△24.1
北上・みちのく芸能まつり(8月)	267※1	357※1	△25.2※1	105※2	357※2	△70.6※2
夏油高原スキー場(12月～5月)	111	86	29.1	156	86	81.4
夏油高原温泉郷(日帰り+宿泊)	140	129	8.5	21	129	△83.7
展勝地周辺施設(レストハウス、みちのく民俗村等)	151	120	25.8	166	120	38.3
文化施設(さくらホール)、スポーツイベント	151	135	11.9	415※3	135※3	207.4※3
宿泊施設(温泉郷以外)宿泊者数	424	153	177.1	316	153	106.5

※1 2018年より入込数集計方法を変更したため、増減は参考値。

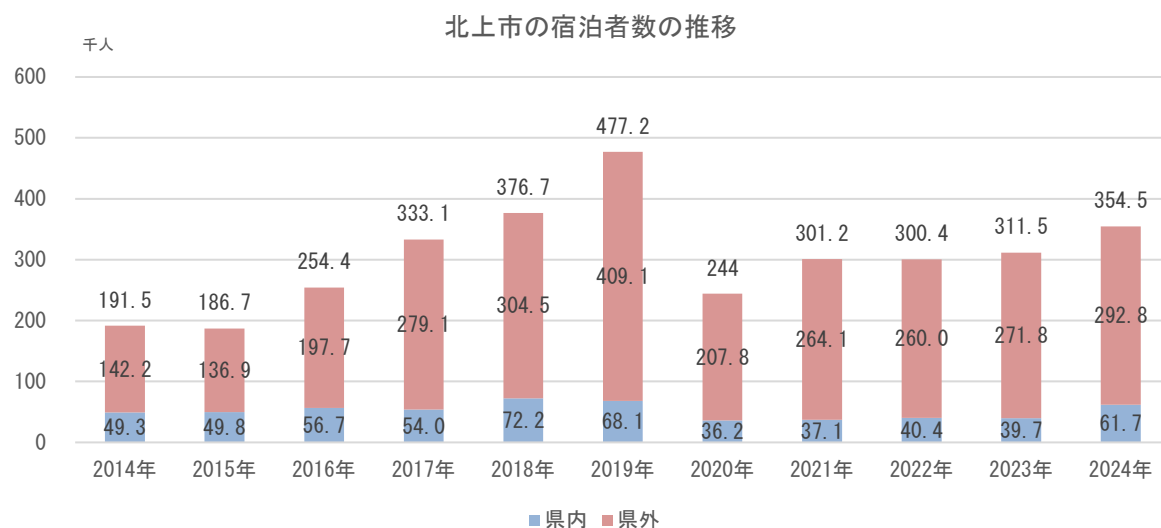
※2 2022年より「トロッコ流しと花火の夕べ」観覧会場を変更したため、増減は参考値。

※3 2023年より入込数集計方法を変更したため、増減は参考値。

⑬ 北上市の宿泊者数の推移

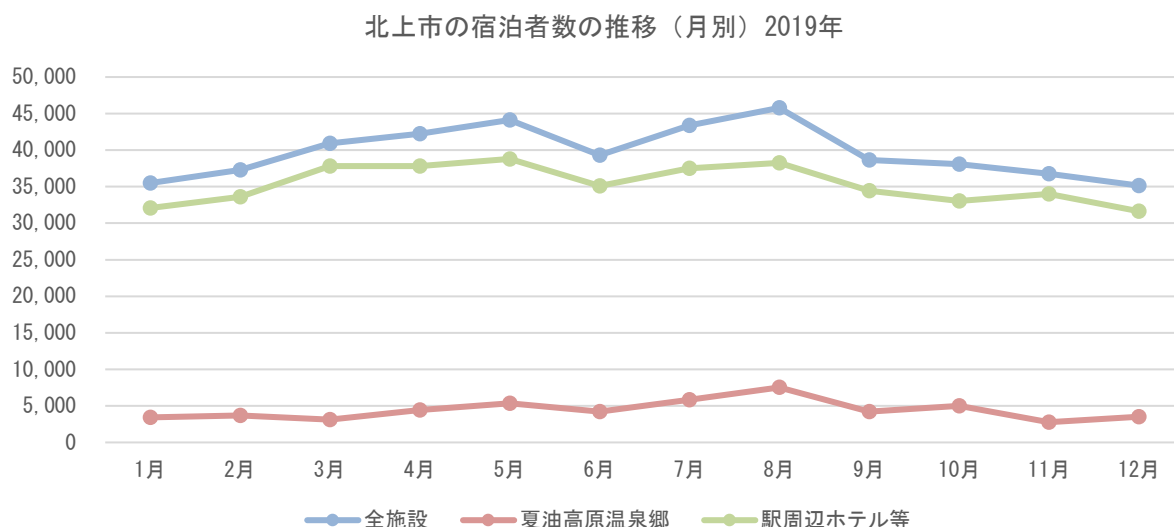
北上市の宿泊者数は、2020年に新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだものの、ここ数年増加傾向にあります。

北上市は、半導体や自動車関連、パルプ、食品などの幅広い業種の企業が集積しており、2017年には大手半導体メーカーの国内第二拠点の立地が決定しました。その後も、工業団地への新規立地や既存企業の設備投資が進んでおり、県外からビジネス目的の来訪が増えていることが大きな要因と考えられます。



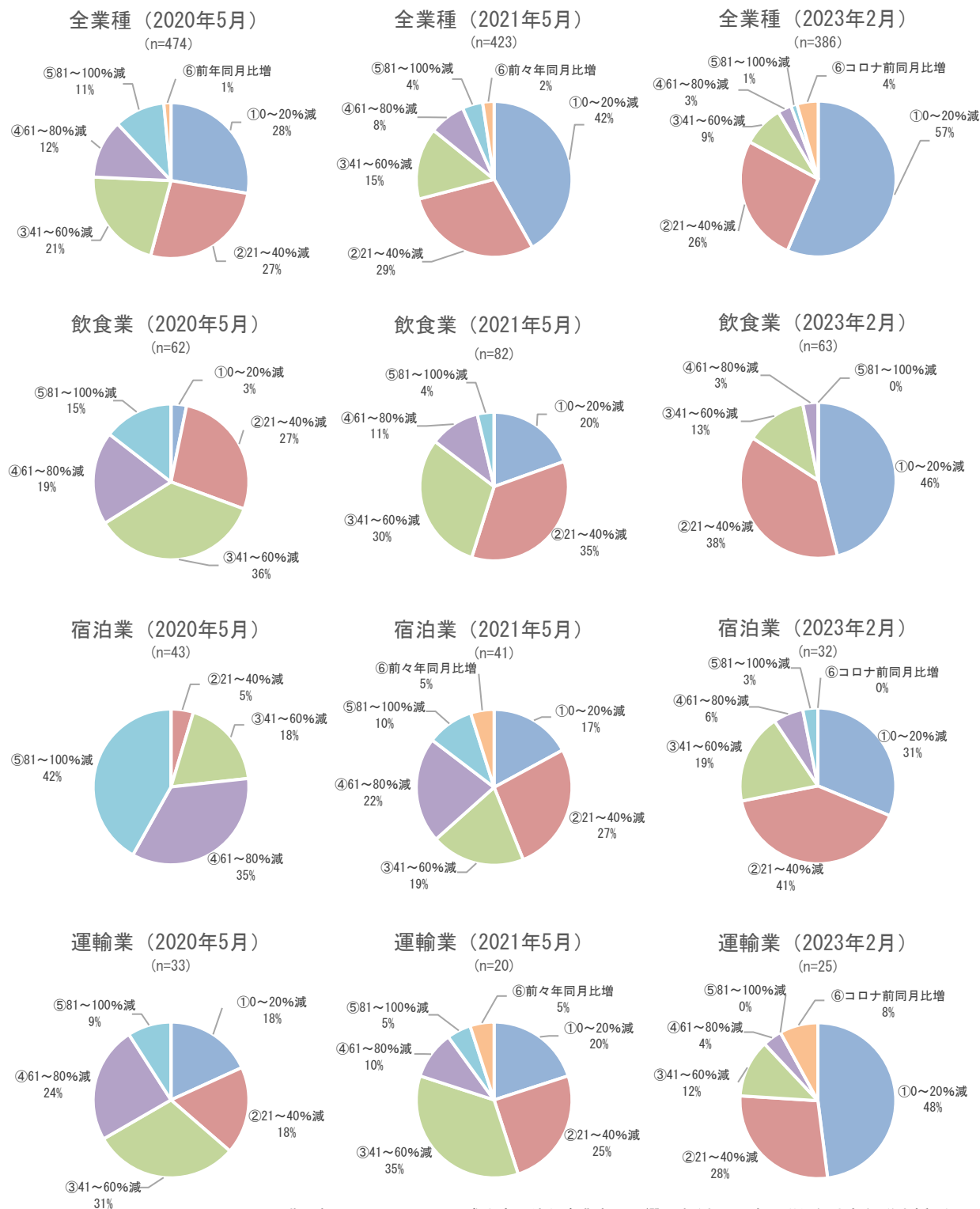
出典：北上市統計書

2019年の月別の宿泊者数の推移をみると、ゴールデンウィークのある5月と夏休みの8月にピークがあることがわかります。一方、さくらまつりや芸能まつりが開催される時期の宿泊者数は、まつりの入込数の割には決して多くないことから、日帰り中心の滞在となっていると考えられます。



⑭新型コロナウイルス感染症に伴う事業者への影響

新型コロナウイルス感染症に伴う事業者の売上の影響については、減少幅が小さくなっています。2023年2月の調査は「新型コロナウイルス感染症等に伴う事業者の影響調査」として実施され、物価高騰等による影響も加味された結果であるため、コロナウイルス感染症の影響は、さらに小さいことが推察されます。



出典：新型コロナウイルス感染症に伴う事業者の影響調査(岩手県商工労働観光部経営支援課)
※2023年2月は「新型コロナウイルス感染症等に伴う事業者の影響調査」として実施

(2) 観光業の課題

課題 1	コロナ禍を経た観光需要の変化
------	----------------

●新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊業や飲食業、運輸業など多くの産業に深刻な影響が生じました。このように観光関連産業は外的要因の影響を受けやすい産業である一方で、需要回復に対応するうえで重要な基盤であり、観光インフラが損なわれることのないよう事業継続のための様々な支援とともに、持続可能な観光地づくりに向けた体制の整備も求められます。

●コロナ禍後の旅行形態は、団体旅行から、家族や友人・知人との小グループや一人旅などの個人旅行に変化しつつあります。旅先での需要も、グループ各々が求めるものは様々であり、多様な需要に対応していく必要があります。

●新型コロナウイルス感染症の流行を契機に普及が進んだワーケーションやリモートワークなどの新しい働き方は、コロナ禍を経た後も定着しつつあります。そうした動きに対応した受入体制の構築が必要です。

●二地域居住や滞在型の広域観光など、自宅以外の拠点を持つことにより暮らしと旅の境界を曖昧にする、柔軟な生活スタイルへの対応として、鉄道及び道路の結節点である北上市の交通利便性を活かした取り組みが求められています。

課題 2	地域資源を生かした着地型観光の充実
------	-------------------

●北上市は、展勝地さくらまつりと北上・みちのく芸能まつりの時期にまとまった観光客入込があり、それ以外の時期の入込も徐々に増えてきています。地域にもともとある魅力を再発見し、多様な需要に対応する、持続可能なコンテンツの充実を図る必要があります。

●北上市は、ものづくり産業の集積や二子さといも等の農産物のほか、北上総合運動公園に代表される高規格のスポーツ施設を有しているなどの特徴があります。その特徴を地域資源として生かし、産業観光の推進、各種大会や合宿等の誘致に産業の枠を超え連携して取り組んでいく必要があります。

●北上市にはビジネスを主目的とした県外からの来訪が多くありますが、観光へ誘導するアプローチは決して十分ではありませんでした。一方で、市内には新たに複数のビジネスホテルの建設が進んでおり、今後、増加が見込まれるビジネス客を中心とした宿泊者の市内飲食や物産購入への誘導や観光地への再訪へつなげるため、宿泊施設や飲食店等と連携した取り組みを検討する必要があります。

●展勝地エリアと夏油高原エリアは、豊かな自然に囲まれた北上市を代表する観光資源ですが、路線バスなど駅からの二次交通の手段がなく、アクセスは決して良いとはいえません。観光客の移動手段として持続可能な二次交通の構築を検討する必要があります。また、両エリアの施設の老朽化も進んでおり、魅力向上に向けた改修等の対応が求められます。

5-5-2 観光業の振興の方針

方針 1	コロナ禍を経た観光需要の変化に対応した受入環境の整備
------	----------------------------

コロナ禍を経て変化した旅行形態や、コロナ禍を契機に定着しつつある新しい働き方に対応した受入環境の整備を進めます。

1-1 観光需要転換期における事業者支援

観光需要の転換が見られる状況において、誘客促進のための取り組みを積極的に展開するため、観光事業者の事業継続や観光需要の変化に対応するための支援を行うとともに、官民連携して誘客のためのキャンペーン等を実施します。

1-2 コロナ禍を経て変化した旅行形態や新しい生活スタイルへの対応

新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、旅行形態の変化や、ワーケーション、リモートワークなどの新しい働き方の定着が見られます。二地域居住や滞在型の広域観光など生活スタイルの変化も見られ、それらに対応した関係人口の受入環境整備を進めます。

1-3 インバウンド誘客促進に向けた受入環境の整備

国の外国人旅行客数はコロナ禍直前を超える状況となっており、そのインバウンドを当市にも誘導するため、外国人旅行者向けの滞在コンテンツの磨き上げや観光施設の受入環境整備を進めます。

また、関係機関と連携したプロモーションを展開します。

方針 2	地域の「稼ぐ力」を育む観光資源の磨き上げ
------	----------------------

北上市の自然、産業、歴史、文化など様々な特色ある資源を組み合わせ、魅力ある観光コンテンツの造成に取り組みます。また、観光振興の効果が地域経済に波及をもたらすよう、産業間の連携強化を図ります。

2-1 夏油高原エリア

夏油高原エリアは、夏油高原温泉郷や夏油高原スキー場など、豊かな自然と触れ合うことのできる環境に恵まれ、近年はキャンプやSUPなどアウトドアアクティビティに親しむことのできるエリアとして、グリーンシーズンにおいても注目が集まっています。

年間を通し多くの観光客が訪れることが期待されるエリアであり、滞在型コンテンツの充実を図り、夏油ブランドの魅力向上につなげます。

2-2 展勝地エリア

展勝地エリアは、みちのく三大桜名所に数えられる展勝地桜並木が全国的にも有名ですが、周辺の自然や歴史などの地域資源も豊富です。

2025年度からは北上市の観光拠点である展勝地公園、展勝地レストハウス、みちのく民俗村を同一事業者による指定管理としており、それらの拠点を核に、四季を通じて多くの人が集う賑わいの場として親しまれるよう、観光資源を磨き上げる取り組みを推進します。

一方で、展勝地レストハウスは設置後40年を経過し、令和11年に改修時期を迎えることから、駐車場等の受入環境の向上を含めた改修方針を定めます。

2-3 その他

ふるさと納税制度との連携等により、地場製品の消費拡大、販路拡大につなげるほか、産業、農産物、食、文化、JR北上線沿線の広域観光資源等の地域資源を生かし、観光資源として積極的に活用することで産業全体の振興を図ります。

また、恵まれた交通ネットワークを生かし、コンベンションの誘致促進にも引き続き取り組みます。

方針 3 観光推進体制の構築・強化

北上観光コンベンション協会等の関係団体や観光事業者、地域、市民と目標を共有し、それぞれの役割分担のもと、相互に連携して観光施策の推進に取り組みます。

また、観光資源を広域的にネットワーク化し、エリアとしての魅力と集客力を向上させるため、周辺自治体と連携した取り組みを推進します。

3-1 関係団体、観光事業者との連携強化と持続可能な体制整備

観光コンテンツの発掘・磨き上げや情報発信など、観光施策の推進にあたっては、北上観光コンベンション協会をはじめとする関係団体や観光事業者との連携のもと、取り組みを進めます。

また、商工や交通、文化、スポーツ、教育など多様な主体の参画による観光地づくりを促進します。

さらに、市内のホテル建設動向を的確に捉えながら、全国の先進地で実施されている宿泊税の導入等について研究を進め、持続可能な観光地づくりに向けた体制整備を図ります。

3-2 広域連携の推進

広域周遊観光を促進し、滞在日数や来訪回数の増加と観光消費額の拡大につなげるため、県をはじめ西和賀町など近隣市町村との連携を推進し広域的なプロモーションを展開します。

また、姉妹都市や友好都市との交流を通し、北上市の知名度向上を図ります。

3-3 持続可能な交通サービスの検討

分散する観光スポット間の回遊性を向上させるため、多様な観光客ニーズに対応した持続可能な交通サービスの在り方について、関係事業者と連携しながら検討を行います。

【成果指標】

指標	現状値	目標		出典
	2019年	2025年	2030年	
年間観光客数	1,806千人	2,380千人	2,710千人	実績
年間宿泊者数	477千人	604千人	1,133千人	実績

5-5-3 具体的な取り組み

方針 1	コロナ禍を経た観光需要の変化に対応した受入環境の整備
------	----------------------------

1-1 観光需要転換期における事業者支援

- 事業継続を支援するための各種支援策の検討・実施
- 観光需要の転換期に対応したキャンペーン等の実施

1-2 コロナ禍を経て変化した旅行形態や新しい生活スタイルへの対応

- 旅行形態の変化と需要の多様化に対応するための、観光素材の掘り起こしとプロモーション実施
- ワーケーション、リモートワーク等の働き方や、二地域居住、滞在型広域観光等の生活スタイルの変化に対応した受入体制の構築

1-3 インバウンド誘客促進に向けた受入環境の整備

- 外国人旅行者向け滞在コンテンツの充実
- 日本政府観光局（J N T O）や県、関係団体と連携した訪日プロモーションの展開

方針 2	地域の「稼ぐ力」を育む観光資源の磨き上げ
------	----------------------

2-1 夏油高原エリア

- 夏油高原スキー場を中心としたウインターシーズンの滞在コンテンツの充実
- 国際競争力のあるスノーリゾート形成に向けた取り組みの推進
- 通年型アウトドアフィールドとしてのブランディング強化

2-2 展勝地エリア

- 同一事業者による指定管理となった展勝地公園、展勝地レストハウス、みちのく民俗村を核とした、展勝地エリア全体の通年での賑わいの創出
- 四季折々の豊かな景観と歴史・文化を生かした魅力あるコンテンツの充実
- 展勝地レストハウスに求められる機能や施設の在り方を整理したうえで、現在地での長寿命化や建て替え、移設等の施設改修方針を道の駅構想も含めて検討

2-3 その他

- 「風流踊」のユネスコ無形文化遺産登録を基盤とした民俗芸能の魅力発信
- サイクリング、トレッキング等スポーツツーリズムの推進
- 教育旅行、スポーツ合宿や各種大会、M I C E（※）等の誘致促進
- 農業体験、産業観光等他の産業と連携した体験型観光商品の充実

- 物産品の開発支援、販売促進
- 観光施設、設備等の適切な維持管理
- 地域おこし協力隊による観光事業者と連携した観光コンテンツの創出

方針 3	観光推進体制の構築・強化
-------------	---------------------

3-1 関係団体、観光事業者との連携強化と持続可能な体制整備

- 北上観光コンベンション協会との連携強化
- 観光地域づくり法人（DMO）の導入検討
- 宿泊税導入等の先進事例の研究と、持続可能な観光地づくりに向けた体制整備

3-2 広域連携の推進

- みちのく三大桜名所連絡会議によるプロモーションの展開
- 北上・西和賀観光連絡協議会による、JR北上線沿線の景観等、隣接2自治体からなるエリアならではの観光資源の掘り起こしと、プロモーションの展開
- 岩手県、県南広域振興局管内市町村等との連携による周遊の促進
- 姉妹都市、友好都市との交流促進

3-3 持続可能な交通サービスの検討

- 二次交通が脆弱な展勝地エリア・夏油高原エリアにおける、財源の確保も含めた、持続可能な公共交通体系の検討

※ MICEとは、企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。（観光庁ホームページより）